

さいくうあと通信

発行 明和町 齋宮跡・文化観光課
 (三重県多気郡明和町大字馬之上 945 番地)
 電話 : 0596-52-7126 FAX : 0596-52-7133
 E-mail : saikuuato@town.mie-meewa.lg.jp

新しい指定文化財の紹介 こがね こふんぐん ～小金古墳群 さんごうふん 3号墳～

池村にある「小よこあなしきせきしつ金古墳群 3号墳」が、新たに町指定史跡となり、横穴式石室を備えた古墳としては、町内で初めての指定となりました。

この古墳は、平成 19、20 年度に三重県によって発掘調査が行われ、死者を葬った部屋である横穴式石室がほぼ完全な状態で残っていることがわかりました。

古墳時代後期（およそ 1400 年前）に造られた円墳ですが、盗掘を受けていたためか、棺や副葬品などは残っておらず、どのような人が葬られていたのかは不明です。



横穴式石室の内部から外を見えています。埋葬が終わった後にはこの入口は閉じられました。こういった石室は天岩戸伝説やイザナミの黄泉の国伝説のモデルになったと考えられています。



横穴式石室内部を入口から見えています。左右の壁が斜めになっているので、上に行くほどすぼまっているのがよくわかります。この部屋に死者が棺に納められて葬られていたようです。棺や骨は残っていませんでした。

見学にあたって

隣接の齋宮きららの森駐車場をご利用ください。また、現在横穴式石室は危険防止と保護のため、埋め戻した状態になっており、内部の見学はできません。看板の裏にあるのが古墳です。

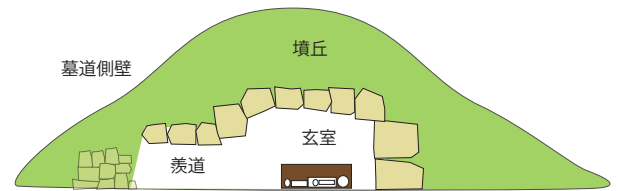
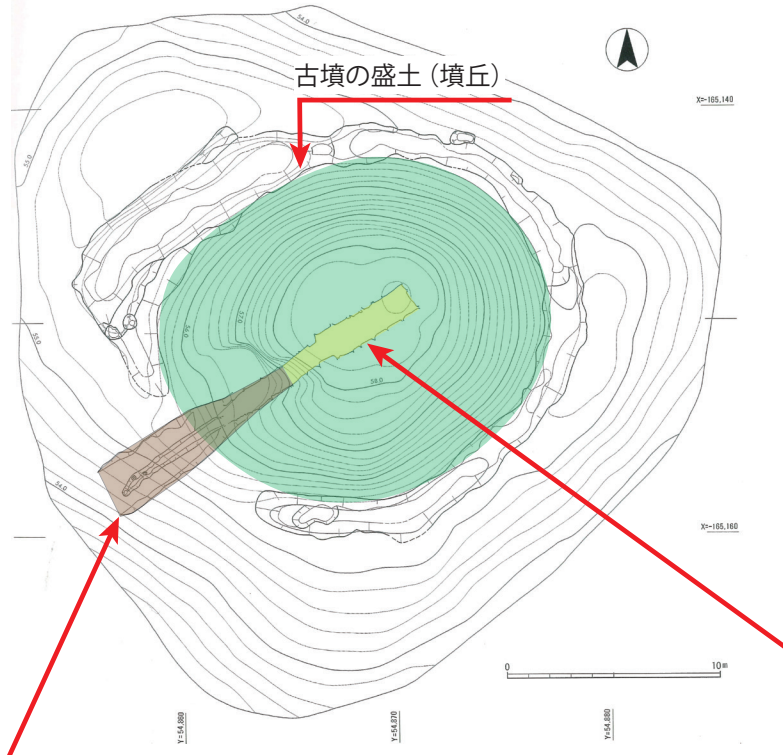


小よこあなしきせきしつ金古墳群 3号墳と整備された看板

* 看板とその周辺整備については、船谷建設株式会社にご協力をいただきました。



古墳を上から見た図



墳丘と横穴式石室の断面模式図

- ふんぎゆう 墳丘・・・土を盛り上げて造った山
- げんしつ 玄室・・・石室奥にあり、死者を納める部屋
- せんどう 羨道・・・玄室に続く道で天井は低い
- ぼどうそくへき 墓道側壁・・・天井はなく、埋葬の時に埋める

石室に通じる道 (墓道)



中央にくぼんでいるのが墓道で、奥に石室が見えます。墓道を通って死者を石室の中に運び、道は葬ったあとに埋めました。道の左右には、石が積まれているところがあります (墓道側壁)。

死者が納められた部屋 (横穴式石室)



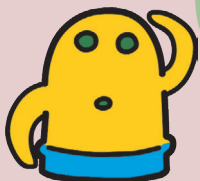
古墳の盛土を掘って、石室の天井石が出てきた状態です。大きい石で蓋をして、その隙間に小さい石を詰めていました。


密集して造られた古墳群

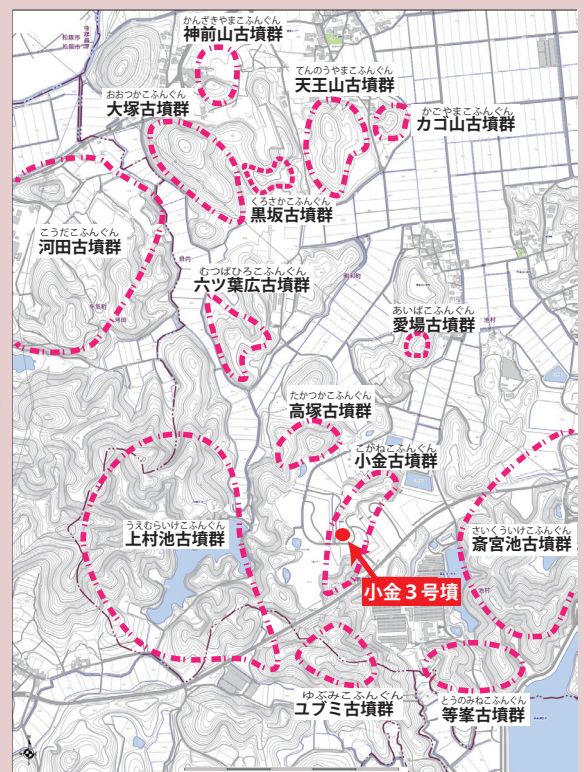


このあたりには、古墳という昔の墓がたくさんあるようじゃ！
なぜこんなにあるのじゃ？

この地図に入っているところだけでも 200 基ほどの古墳が造られていたんだ。ほとんどが今から 1400 年ほど前に造られたもので、当時は家族や仲間が死ぬと近くに墓を造って葬ったんだ。



地図の  で囲まれている範囲が古墳群です。玉城丘陵は県下でも有数の古墳集中地帯となっています。このあたりは、古墳が造りやすい場所であったとともに、近くにはたくさんの方が住んでいたのでしょう。



玉城丘陵の主要古墳群地図